

医療を通じて人と地域を結ぶメディカル情報誌

あかね akane

vol.33
2015
Summer

Close Up 土谷総合病院 看護部

パートナーシップ導入

あらゆる場面における看護のアシスト

Topics 土谷総合病院 小児科

子どもたちのための「愛のある医療」



土谷総合病院 新人看護スタッフと育成委員

いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう



医療法人あかね会

理事長挨拶

土谷病院では、1967年12月、平板(キール)型ダイアライザーを使用し、血液透析療法を開始しました。現在、土谷総合病院・阿品土谷病院・中島土谷クリニック・大町土谷クリニックで、数多くの腎不全患者さんの治療を行っております。諸先生方が、患者さんをご紹介していただいた賜物でございます。あらためて、御礼申し上げます。

現在、日本では、31万人の末期腎不全患者さんが透析治療を受けています。アメリカの透析患者さんは、41万人です。日本の人口は1.3億人、アメリカの人口は3.2億人ですから、日本の透析患者さんは、人口当たり、アメリカの約1.9倍という状況です。毎年、新たに透析や腎移植を受ける患者は、日本が約4万人弱、アメリカは12万人ですから、日本人の方が、腎不全になりやすいわけではありません。腎移植件数に大きな差(日本:年間1,800件、アメリカ:17,000件)があり、日本の透析治療が優れているためです。アメリカでは透析導入後5年の生存率が35%程度ですが、日本では約60%と大きな開きがあります。

ところで、透析治療が優れている日本は、新たな問題を抱えることとなりました。介護が必要な透析患者さんが急増するという問題です。自力で通院できない患者さんが増えています。週3回通院しなければならない血液透析患者さんにとって、介護が必要な状態になると、患者さんご本人・ご家族にとって多大な負担が発生します。現在、あかね会在宅事業部のヘルパーが通院介助している透析患者さんは、81名に達しています。自力で移動できるのだけれど、認知症を抱え、どこに行ってしまうか分からない患者さんもいらっしゃいます。自力で移動できる認知症透析患者さん(2名)は、老人保健施設シェスタの認知症専門棟に入所いただいて、併設する阿品土谷病院の透析室で血液透析治療を行っております。

土谷総合病院では、2007年10月在宅血液透析を開始し、現在、在宅血液透析患者さんは13名になっています。2008年1月には、第1例目の腎移植を行い、今までに生体腎移植5例、死体腎移植2例行っております。今後とも、よりすぐれた包括的腎不全治療が行える態勢づくりを目指していきたいと考えております。

医療法人あかね会
理事長

土谷 晋一郎

Tsuchiya Shinichiro





図3 PNS-Mind:心・精神・意識

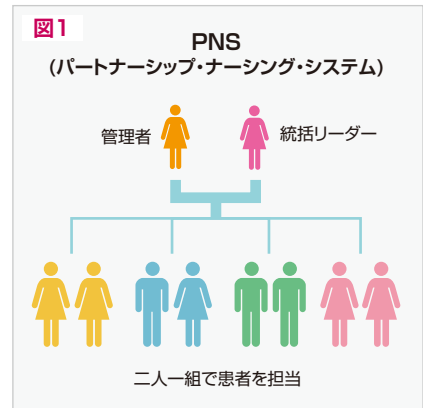


図2 PNSに期待する効果



信頼される 看護をめざして 私たちは 成長し続けます

看護部理念

「急性期に必要な知識・技術・態度
を習得し、信頼性の高い看護を追求
する」を目指して

●土谷総合病院

看護部長 田中 律子

看護職の役割は、その方に必要な看護を判断し、安全で安心かつ適切に提供することです。そのためには、一人ひとりの看護者が豊かな心と確実な知識・技術を身につけ、成長し続けることが重要だと考えます。

当院では、腎不全・循環器治療をはじめ高度な急性期医療が各診療科で展開され、同時に、慢性疾患継続管理が行われています。従って、看護職に求められる知識や技術は膨大で、これらをより確実に提供するための看護部の取り組みを紹介します。

新人育成

我々は、教育指針に「知識と技術の習得」「人を人として尊重する心」を掲げて、キャリア段階別の教育目標を設定、中でも新人育成に力を入れています。平成22年、看護の質向上による医療安全確保と新人看護職員の早期離職防止を図るため、新人看護職員研修が努力義務化となりました。当院も、既存のプログラムを見直し、ガイドラインに沿った内容に改良し現在の形となりました。特徴は、4月1ヵ月間の入職時研修で、全職種協力による集合研修・全領域経

験する見学研修・シミュレータ研修は、知識と実技の繰返し効果が効果的な研修です。そして、夏、秋に、系列内の阿品土谷病院・透析クリニックの新人看護職も集まって一日研修を行い連携強化も図っています。これにより、新人の離職率は激減し目標の一つは達成できたと評価しています。

看護方式

医療の高度化、チーム医療、地域医療連携等多岐にわたる変化の中、『安全』の担保は重要な課題です。看護職の経験値により看護の質に差が生じるのは仕方ないことですが、それを埋める方法を探していた頃、福井大学医学部附属病院発信のPNSに出会いました(図1参照)。PNSは、“安全で質の高い看護提供を目的とし、2人の看護師がパートナーとして、互いの特性を活かし、補完し協力しあう看護提供方式”です。平成24年度に導入し、まだまだ、課題は沢山ありますが、就職志望動機になる等、定着しつつあります(図2・3参照)。

我々は、今後も皆さまに信頼していただける看護を追求し、改善に努めてまいります。

7階病棟 | 患者様主体の優しい入院看護を

7階病棟
江原 真由美



当院には、全室個室のみの病棟があります。7階病棟は、平和記念公園が目前に広がる北棟から国道2号線が見える南棟合わせて個室43床の広い病棟です。個室を希望される全診療科患者様対応の混合病棟となっています。

混合科ならではの、小児から高齢者まで幅広い年齢層、急性期から慢性期までの様々な患者様を対象とした看護ケアを通して、本人やご家族の方の声をしっかり聴き、患者様主体で思いやりのある、優しい看護を目標にとりくんでいます。スタッフの半数は20代の若い病棟ですが、PNSの導入で、ますます先輩・後輩関係なく声を掛け合い、切磋琢磨しながら信頼される看護を目指しています。

また、病棟でバーベキュー大会やレクレーションを実施するなど、オン・オフを通して、スタッフ間の親睦を深め、強いチームワークが自慢の病棟です。

助産外来 | 専門外来で素敵なサポーターに

4北病棟
三浦 満



当院は広島県の地域周産期医療センターとしての役割を担っています。看護職は、正常経過の妊産婦から、合併症のある妊産婦や児の周産期ケアまでを担当しています。

特に力を入れていることは、妊娠中から産後まで病棟スタッフが継続して妊産婦の支援を行うことで、助産外来では妊娠経過に異常のない方の妊婦健診と産後の母乳育児支援を主に行っています。出産も子育ても妊婦やご家族が主役であって、助産師はあくまで「くろこ」です。妊婦やご家族が、アクティブに分娩に臨み、楽しく子育てできるような妊娠中から、退院後まで継続してサポートを行っています。また、様々な社会的背景のあるケースでは、保健センターや地域の開業助産師との連携をとり、母子が孤立することなく育児ができるよう地域全体での支援に取り組んでいます。

妊娠・出産は生涯そう多くない貴重な経験です。その期間を通して出会う「助産師」が素敵な伴走者であるよう日々精進してまいります。

えんげ塾 (スタッフ教育) | 食べることは生きること

NSTシニアアドバイザー
亀井 久美子



「食べる」ということは人間にとって最も基本的な欲求であり、その機能を改善することは患者の大きな喜びですが、誤嚥は生命の危機に直結する重大な問題となります。そこで「安全な経口摂取への支援をするために、コメディカルが嚥下に関する基本的知識を得て実践できるようにする」を目的に「えんげ塾」を立ち上げました。NST活動から波及し、摂食嚥下障害看護に熱い思いをもった有志4人でスタートした活動は4年目を迎えました。

全職種を対象に希望者を募り、2か月に1回の講座と外部講師による講義1回、1年間を通して合計7回の講座で、全講座受講者には「終了証」を渡します。気軽に楽しく学べるよう演習を多く取り入れ、受講生からは「演習が多くわかりやすい」と好評を得ています。現在卒業生は50名、受講生は6職種に及んでいます。嚥下の専門職がない当院ですが小さな活動が知識と技術の普及となり、患者さんのQOLの向上に繋がっていくことを願っています。

慢性腎臓病の食事教室 (患者教育) | グループワークで食事療法をより理解

3南病棟
渡部 恵理子



「慢性腎臓病」は、腎臓の障害(たんぱく尿など)、もしくは腎機能低下(糸球体濾過量 60ml/分/1.73㎡未満)が3か月以上持続する状態をさし、日本の成人人口の約13%、1330万人が慢性腎臓病患者とされています。

「慢性腎臓病」の進行を防ぐためには、生活習慣病予防、薬物療法、とともに食事療法が重要となります。慢性腎臓病の食事療法の基本は、「たんぱく質と塩分の制限」「十分なエネルギーの確保」、進行すると「カリウム」の摂取にも注意が必要です。

当院では、慢性腎臓病の食事療法についての理解を深めていただくために、毎月第1水曜日の14時30分から約1時間、8階会議室で「慢性腎臓病の食事教室」を開催しています。教室では、医師・管理栄養士の講義のほか、参加者の皆様と特殊食品の試食を行いながら、看護師を交えたグループワークを行います。その中で看護師はファシリテーターとして患者様ご自身の理解が深まるような支援を心がけています。参加費無料、予約不要の自由参加です。ご参加をお待ちしています。



Voice of Staff

患者さまのために 強い“志”を持って支える スタッフがいます

常に笑顔を決やさず
患者さまに安心感を与えることが
医師・看護師としての使命です。
そこで、当院で働く元気いっぱいの
スタッフをご紹介します。

● 土谷総合病院 看護部



患者さまに、質の高い看護を提供していきたい

皮膚・排泄ケア認定看護師として、皮膚科外来での診療補助をしながら創傷ケア、フットケアをメインに、ストーマケアや褥瘡ケアにも従事しています。病棟や訪問看護からの依頼があれば、いつでも相談を受け、その現場で直接ケアを実施したり、指導も行っています。

院外研修では運営側に携わる機会も多く、成長途中の私には一つ一つの出来事がよい刺激となっています。これからも、質の高い看護の提供ができるよう自己研鑽していきたいと思っています。

外来主任、皮膚・排泄ケア認定看護師 廣島 なつき



先輩たちのような、目標とされる看護師をめざして

私は学生の頃から手術室看護師希望でした。

実際に手術室に配属が決まった時は仕事についていけないか不安でしたが、先輩たちの指導のお陰で入職6年目になり、できることや分かることが増えて、たくさんのやりがいを感じながら仕事をしています。

手術室は男性スタッフが多く、魚釣りやキャンプ、スノーボーに行ったりと院外でも仲良しです。目標とする先輩たちに追いつけるよう、後輩たちから目標とされるような看護師になれるよう日々勉強していきます。

手術室看護師 鳥内 未来

周囲の支えと、看護が好きという気持ちを忘れずに

入職して13年目、循環器病棟で働き8年前より隔週の禁煙外来の専門看護師として指導もしています。

その間二児の母となり、5歳ともうすぐ3歳の娘の笑顔や励ましにパワーをもらっています。仕事と育児の両立は大変ですが、職場のスタッフの理解と協力をはじめ家族の支えで無理なく仕事できています。

休日は友達とランチや日帰り旅行に家族旅行、冬はスノーボーなど仕事へのエネルギー源として満喫しています。これからも大好きな看護を楽しんで頑張ります。

5北病棟保健師 兼 禁煙認定指導看護師 坂原 まゆ





「愛のある医療」を モットーに掲げ、 子どもたちのために 日々尽力しています

現在、土谷総合病院は
小児循環器診療において
広島県内で小児の心疾患への
手術・カテーテル治療が可能な
貴重な施設となっています

●土谷総合病院
小児科 部長 田原 昌博



▲ Flipper Coil



▲ Amplatzer Duct Occluder (ADO)

土谷総合病院小児科は昭和58年に開設され、昭和63年からはNICU(未熟児新生児集中治療室)も開設しています。歴代、「小児循環器」と「新生児」を2つの柱にして診療を行っており、「日本小児循環器学会専門医制度修練施設」、「日本周産期・新生児医学会専門医制度指定研修施設」、「胎児心臓超音波検査専門施設」、「Amplatzer Duct Occluderを用いた経皮的動脈管閉鎖術の施行認定施設」にも認定され、現在、小児循環器診療においては広島県内で小児の心疾患への手術・カテーテル治療が可能な2つの施設の内の1つとなっており、新生児診療においてはドクターカーも配備し、広島県の地域周産期母子医療センターとして機能しています。当科は平成26年から4人に増員となり、田原、下薗、新田、真田の4名の小児科専門医の下、「愛のある医療」をモットーに子どもたちのために日々尽力しています。

Amplatzer Duct Occluder (ADO:動脈管閉塞栓)を用いた 経皮的動脈管閉鎖術

当科は平成27年に「Amplatzer Duct Occluderを用いた経皮的動脈管閉鎖術の施行認定施設」に認定されました。ADOを使用するにあたって日本Pediatric Interventional Cardiology学会の定める施設基準と教育プログラムの履修義務が課せられており、学会による基準を満たした施設・術者のみメーカーから閉塞栓が供給されます。施設認定は広島県内で2施設目、中国地方で4施設目となります。

動脈管開存は、胎児期に開存している動脈管(大動脈と肺動脈間に存在する血管)が、新生児期以後も自然閉鎖せずに開存状態を維持した病態です。開存することにより、大動脈から肺動脈へ短絡が生じるのですが、管が太いと短絡量が多くなり、左心系への容量負荷となり、心不全、肺高血圧を生じます。管が細いと心不全を生じることはないのですが、細菌性心内膜炎を合併する危険があります。そのため、短絡

する血液量の多少に関わらず、ほとんどに治療適応があるとされています。

治療方法には開胸手術と経カテーテル治療があります。新生児期・乳児期に心不全症状が強い場合は、開胸手術を行います。これに対し、生後6ヶ月、体重6kg以上の子であれば、経カテーテル治療を行うことが可能となります。カテーテルによる動脈管閉鎖術は、コイルを用いたコイル塞栓術とADOを用いた閉鎖術があります。

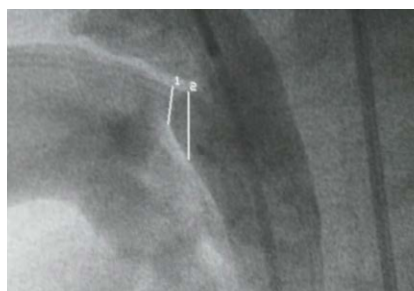
コイルはニッケルクロム合金製の0.038インチのスプリングのような形状のワイヤーで、ところどころに塞栓効果を高めるためにポリエステルファイバーという線維が付けられています。これを、動脈管最小径部を挟むように留置するのですが、3~4mmを超える太さの動脈管ではコイル塞栓術が困難であり、遺残短絡による溶血や追加留置時のコイルの移動・脱落といった合併症のリスクも高くなり、ADOが登場する前は開胸手術を選択せざるをえませんでした。



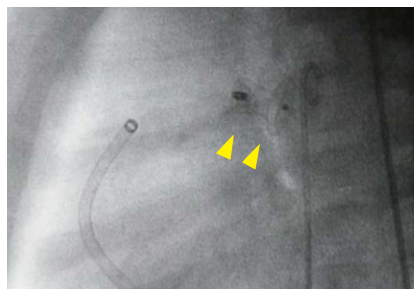
一方、ADOはコルク栓のような形状にデザインされたもので、0.003もしくは0.005インチのニチノール(ニッケルチタニウム合金)ワイヤーを網状に編んで作られていて、内部にポリエステル製のパッチが縫着されています。径2-3mm以上の太い動脈管が対象とされており、日本では12mmまでが対象とされています。米国での多施設共同研究では、平均2.6mmの最小部径の動脈管開存症例439例において、手技的成功率99%、透視時間中央値7.1分、完全閉鎖率:直後76%、翌日89%、1年後99.7%と良好な成績が報告されています。ADOを使用することにより、それまでは技術的に難しかった中等度以上のサイズの動脈管にも経カテーテル治療の適応が広がり、体格が小さな子(生後6ヶ月未満または体重6kg未満)や動脈管の形状が特殊な場合以外のほとんどが経カテーテル治療可能となります。

ADOを用いた経皮的動脈管閉鎖術は、開胸手術と比較して、入院期間が短く、傷口が残らず、そして治療に伴う身体の負担も少ないという大きなメリットがあり、コイル塞

栓と比較しても、手技時間の短さから患者の被曝を低減することができ、合併症の危険も軽減でき、子どもたちのQOL改善に十分貢献できる治療法と考えています。



▲ 動脈管



▲ ADO留置後

Tsuchiya Support Section

スタッフ紹介



診療情報管理士
田窪 建太

病院には医師や看護師など直接患者さまと接するスタッフ以外にもたくさんのスタッフがあります。今回、病院を裏で支える診療情報管理士を紹介します。

診療情報管理室は診療記録、診療情報を適切に管理、運用、保管し情報活用の支援を行う部署です。とても重要な情報を扱っている部署ですので、関係者以外立ち入り禁止となっています。

7名中、男性は田窪一人だけですが、女性職員達ととてもなじんでいます。また他部署との関わりが多いこともあり、誰とも仲良くなれる貴重な人材です。

趣味は料理で生ハム作りに挑戦しているそうです。また今流行の「イクメン」として育児休暇も取得し、子煩悩な一面もある優しいお父さんです。

Column

一枚の写真

開設当初の透析室

この写真は、顧問の土肥雪彦先生からお借りしたもので、透析治療を始めて2年後の透析室です。当時36名の患者さまが透析治療を受けられており、以来、土谷病院は日本の先駆的大規模透析センターとして、高く評価されるようになりました。

建物は現在、株式会社ジェイ・エム・エス広島本社となり、1965年土谷太郎前理事長が創業されて今年で50年を迎えました。



地域連携医紹介

地域の医療機関との緊密な連携と機能分担を推進し、医療技術の向上を図ります。

舟入山本内科クリニック

内分泌・代謝内科(糖尿病・甲状腺・生活習慣病)

院長 山本 眞一

開院して7年目になります。それ以前、土谷総合病院では内分泌内科診療を23年間していました。当時の糖尿病透析患者の血糖、合併症の管理、特に血管イベントの厳しさが現在の医療姿勢のバックボーンになっています。現在も糖尿病、代謝疾患、甲状腺などを主体に診療しています。患者さまの10～20年後を描いて行う医療の思いがゆるがない事を信条としています。診療終了後はカルテの整理、糖尿病疾患患者の摂取カロリー計算、医療連携などで時間に追われています。糖尿病合併症のため必然的に他科紹介、連携が頻回ですが土谷総合病院は対応速く、結果情報も詳細です。連携後も治療の連続性を感じさせていただいています。

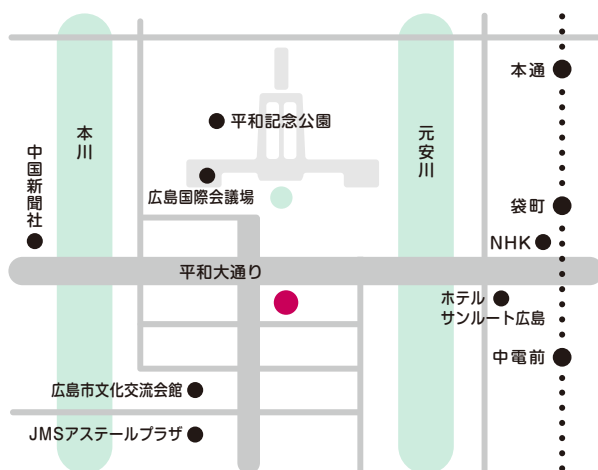


☎ 082-503-7575 Fax 082-503-7578
 受付時間 / 月・火・木・金 8:45～12:30、14:30～18:00 水・土 8:45～13:00
 休診日 / 日・祝日
 住所 / 〒730-0843 広島市中区舟入本町13-12

医療法人 あかね会

土谷総合病院

〒730-8655 広島市中区中島町3番30号
 ☎ 082-243-9191 (代)



- **阿品土谷病院**
 〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
 ☎0829-36-5050 (代)
- **大町土谷クリニック**
 〒731-0124 広島市安佐南区大町東二丁目8番35号
 ☎082-877-5588 (代)
- **中島土谷クリニック**
 〒730-0811 広島市中区中島町6番1号
 ☎082-542-7272 (代)
- **介護老人保健施設シエスタ**
 〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
 ☎0829-36-2080 (代)

在宅事業部(介護サービス部門)

土谷訪問看護ステーション

光南 ☎082-544-2789	西広島 ☎082-507-0855
大町 ☎082-831-6651	出汐 ☎082-250-1577
佐伯 ☎082-925-0771	

土谷ヘルパーステーション

光南 ☎082-545-0311	西広島 ☎082-507-0877
大町 ☎082-831-6654	出汐 ☎082-250-5080
佐伯 ☎082-925-0770	戸坂 ☎082-502-5205
可部 ☎082-819-2250	矢野 ☎082-820-4825
阿品 ☎0829-20-3585	

土谷居宅介護支援事業所

光南 ☎082-504-3202	西広島 ☎082-507-0866
大町 ☎082-831-6653	出汐 ☎082-250-3730
佐伯 ☎082-925-1550	戸坂 ☎082-502-5215
矢野 ☎082-820-4835	阿品 ☎0829-20-3721

土谷デイサービスセンター

光南 ☎082-544-2885	大町 ☎082-831-6600
------------------	------------------

スタッフ募集

心豊かな医療を提供し、楽しく時間を共有しながらスキルアップに繋げるために、あかね会では、やる気のある方、経験豊富な方の募集を随時行っています。詳しくはホームページをご覧ください。



土谷総合病院

制服が変わりました!

編集者後記

土谷総合病院では今年7月1日より事務員の水色の制服を21年ぶりにリニューアルしました。ブルーのスクーフは医師事務補助、ピンクのスクーフは受付事務で色分けされています。何回も制服を変える話が出ては消えておりましたが、今回遂に念願の事務員らしい制服になりスタッフ一同大喜んでいます。

本部事務局



医療法人あかね会 本部事務局

〒730-0811 広島市中区中島町4-11
 ☎ 082-245-9274
<http://www.tsuchiya-hp.jp>
 2015年7月発行